

長野県警察学校における講義について

長野県警察では、平成 25 年から退職警察官の中から「心の伝承官」を委嘱して警察職員に対して職場教養を実施しています。

箕輪町のセーフコミュニティは長野県警察からの声かけで取組みに至っていることから「県民の期待に応える警察活動」と題した講義の中で、箕輪町のセーフコミュニティ取組みについて取り上げ、現状説明と支援を要請しました。

記

1 講義日時

平成 30 年 8 月 22 日(水)

午前 10 時 30 分から午前 11 時 50 分

2 講義場所

長野県警察学校

3 講義対象

入校中の県下巡査部長 24

(各部門からの入校で平均年齢 40 歳くらい)

4 講義者

長野県警察心の伝承官(平成 25 年～)

日本セーフコミュニティ推進機構上席アドバイザー

箕輪町セーフコミュニティ推進協議会アドバイザー

向山 静雄



5 内容

警察官としての勤務経歴、主な警察活動(日航機墜落事故、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、北朝鮮工作船事件捜査、北京オリンピック聖火リレー警備等)、経験を通じての教訓(危機管理、生き甲斐、退職後の生活設計等)に触れた後、箕輪町セーフコミュニティ取組みについて話し、支援等の協力をお願いしました。

受講生は、真剣に聞いてくれました。

○箕輪町のセーフコミュニティ取組み

事故やケガは、病気と同様に健康な生活を脅かす大きな要因であり、外傷予防活動は広義の健康づくりとなることから WHO(世界保健機関)がセーフコミュニティを推奨しています。セーフコミュニティとは、安全安心な地域社会ということで、その活動はデータを根拠とし、活動当初は不慮の外的要因による外傷のみに焦点を当ててきましたが、次第に自殺、虐待などの意図的要因も対象とし、近年では自然災害による人的被害も対象としています。

・安全と安心

・車社会と情報化社会→地域連帯意識低下→犯罪抑止機能低下

・箕輪町は「地域の絆、協働、継続」をキーワードに取組み

・箕輪町の取組みから

・目標は、地域活性化に貢献する安全安心の確保

行政は、情報提供と財政支援

住民は、安全安心の取組みが「触れ合いの場」になり、介護の地域包括支援システム(2025 年目標)で期待される共助、白馬の奇跡と言われた神城断層地震での共助から「共助の基盤づくりの場」になる事を目標

以上